

## 沖縄事務所開設から3年（その2）

2018年4月23日から28日にかけて、新基地建設阻止！連続6日間500人集中行動がとりくまれ、初日の23日には、5時間に渡って作業車両のゲート入りを阻止しました。

2018年8月11日：オール沖縄会議主催による「土砂投入を許さない！ジュゴン、サンゴを守り、辺野古新基地建設断念を求める県民大会」が奥武山陸上競技場で開催され、7000人が参加。

2019年3月16日：「土砂投入を許さない！ジュゴン・サンゴを守り辺野古新基地建設断念を求める3.16県民大会」が那覇市・新都心公園で開催され、10000人が参加。

2019年7月6日：2014年7月に米軍キャンプ・シュワブ前で抗議の座り込みを始めてから、この日で満5年を迎え、350人が抗議行動に参加しました。

2019年12月28日：新基地建設阻止辺野古座り込み2000日を迎えた。

この日参加した仲間たちは、不屈の2000日だったと述懐し、今後も未来のため、「諦めない」を合言葉に、新基地建設を断念させ、勝利するまで座り込みを続けることを確認しました。

2020年1月1日は、辺野古の浜で新年の行事を行い、「今年こそ新基地建設を断念させるぞ」と決意を新たにしました。キャンプ・シュワブゲート前での座り込み、安和琉球セメント栈橋、本部塩川港で闘いがあり、海上でも海保の弾圧に屈することなく連日カヌーチームは闘っています。カヌーチームは安和港から出港する台船を長時間止めるとりくみを行っていますが、命がけのとりくみとなっています。

最近の新基地建設をめぐる動きは、昨年12月末、総工費が約1兆円、工期10年以上もかかることが報道され、税金の無駄遣いだと批判が沸き起こっています。また軟弱地盤対策では、たとえ基地が完成しても地盤沈下が予想され、米軍基準に反するとの報道もあります。なによりも県民の理解の得られない工事の強行は許すべきではありません。

### 沖縄県民の民意

玉城デニー県知事の誕生が2018年9月の沖縄県知事選。翌年の2019年4月、屋良朝博さんが参議院3区補選で勝利をおさめ、7月の参議院選挙では高良鉄美さんが勝利しました。何よりも沖縄県民を勇気づけたのが、2019年2月24日に実施された「県民投票」でしょう。投票率52.48%、反対は43万4273票で投票総数の72.15%となりました。政権側はショックの色を隠せず、岩屋防衛大臣(当時)は、「沖縄には沖縄の民主主義があり、国には国の民主主義がある」と発言し批判を浴びました。かつて高江で大阪府から動員された警察機動隊が、座り込む仲間たちに対して、「土人」呼ばわりの差別発言がありました。政権の閣僚たちに同様な沖縄に対する差別意思があることは決して許されません。

### 世界に広がる連帯の声

米国ハワイに住む日系の青年がよびかけた米国大統領宛の署名には、世界から20万以上の賛同が集まり、米国大統領に提出されました。アメリカからも著名な学者文化人、ノーム・チョムスキーさん、ジョン・ダワーさん、ダニエル・エルズバーグさん、オリバー・ストーンさんらが、承認撤回への支持を声明しました。ドイツの国際平和団体からオール沖縄会議に平和賞が贈られています。国連差別撤回委員会から日本政府への勧告もありました。

つい最近音楽科の坂本龍一さんと俳優の吉永小百合さんが平和を願うコンサートを沖縄で開催しています。

### 最後に、

翁長雄志前沖縄県知事が2018年8月に亡くなりました。工事を強行しようとする政府と対峙し、承認撤回を表明した直後の壮絶な死でした。そして県民にとってショックであったのが、首里城の火災です。

様々な困難、苦難が沖縄に襲いかかっていますが、県民はこの試練を乗り越え新基地建設を断念するまで闘うことでしよう。私たちも、勝利をめざし、連帯して今後も闘いを続けていきましょう！